

# 平成28年度事業報告について

## I. 調査研究事業

### 1. 海外派遣事業

#### (1) ITとサービスデザインの最前線（サンフランシスコ）

米国におけるIT活用の現状と、ビジョン構築、事業戦略とはどのようなものか。サービスデザインはどのように取組まれているか。GEデジタル、SAP、Pivotal等の先進企業の調査を行った。

期 間 : 2016年11月7日(月)～10日(木)

コーディネーター : 澤谷由里子 東京工科大学 教授

メンバー : 鈴木 輝重 アルケア 代表取締役社長  
山下 寛人 オイシックス 執行役員システム本部長  
岩井 智子 クラブビジネスジャパン 取締役  
黒田 達也 事業創造大学院大学 副学長・教授  
岩崎 薫里 日本総合研究所 調査部 上席主任研究員  
本多 健吾 フューチャーアーキテクト ディレクター  
齋藤 奈保 国際IT財団 事務局長  
湯浅 勝浩 日本生産性本部 サービス産業生産性協議会課長

#### (2) IT×ゲノム情報（ボストン）

米国のゲノム・ベンチャーは、大学などとどのように連携し、新産業を作り上げているのか。ゲノム情報が持つ大きな可能性の反面、倫理、プライバシーや諸規制等への対応はどのように取組まれているのか。世界最大のバイオベンチャー都市ボストンにおいて、訪問調査を行った。

コーディネーター : 神成 淳司 慶應義塾大学 環境情報学部 准教授、医学部 准教授(兼任)  
内閣官房 情報通信技術(IT) 総合戦略室長代理/副政府CIO

メンバー : 白川 晃久 エディットフォース 取締役  
島田 賢治 President of UNIGLOBE KISCO INC. (a KISCO Company in USA)  
篠宮 輝 個人情報保護委員会事務局 上席政策調査員  
堀澤 夏実 個人情報保護委員会事務局 係員  
坂本 智章 財務省 大臣官房総合政策課 課長補佐  
高山 聖 新日本有限責任監査法人シニアマネジャー  
志村 彰洋 電通 主任研究員  
織田 周平 日本電気 官公営業本部 係長  
石川 晶雄 フューチャーアーキテクト コンサルタント  
森 憲司 ヤマトホールディングス デジタルイノベーション推進室 マネージャー  
和田 智之 理化学研究所 光量子技術基盤開発グループ グループディレクター  
齋藤 奈保 国際IT財団 事務局長  
日下部裕美子 国際IT財団 プログラムディレクター

※現地調査は2017年度に実施

## 2. 国内プログラム（海外派遣事業ワークショップ）

### （1）ITとサービスデザインの最前線

① 2016年10月14日（金）16:00～18:00 @ステーションコンファレンス東京

テーマ「アメリカ企業におけるデジタル変革の最新動向」

【講師】日本総合研究所 調査部 上席主任研究員 岩崎 薫里 氏

② 2016年11月1日（火）16:00～18:00 @ステーションコンファレンス東京

テーマ「調査メンバーによる問題意識の発表・共有化」

③ 2016年11月18日（金）16:00～18:00 @ステーションコンファレンス東京

テーマ「現地調査を踏まえた事業開発プランの発表」

### （2）IT×ゲノム情報

① 2017年2月8日（水）19:00～20:30 @虎ノ門法経ホール

テーマ「IT活用による今後の社会変革を見据えて」

【講師】慶應義塾大学 環境情報学部 准教授、医学部 准教授（兼任）

内閣官房 情報通信技術(IT) 総合戦略室長代理/副政府CIO 神成淳司 氏

② 2017年2月22日（水）19:00～20:30 @虎ノ門法経ホール

テーマ「ゲノム編集とは何か～生命科学×ITの可能性」

【講師】KDDI 総合研究所 リサーチフェロー 小林 雅一 氏

③ 2017年3月1日（水）19:00～20:30 @虎ノ門法経ホール

テーマ「ハイテクノロジーが生み出す新潮流—スマートセルインダストリー時代の幕開け」

【講師】経済産業省 商務情報政策局 生物化学産業課長 西村 秀隆 氏

④ 2017年3月22日（水）19:00～20:30 @虎ノ門法経ホール

テーマ「ゲノム・ベンチャーの最前線」

【講師】 エディットフォース 取締役 白川晃久氏

G-TAC 代表取締役社長 植松正太郎氏

### （3）米国におけるフィンテックおよびIoTの動向（サンフランシスコ、他）<sup>1</sup>

① 2016年5月20日（金）16:00～18:00 @航空会館

テーマ「報告書のとりまとめについて」

### （4）欧州主要国におけるIoT覇権を巡る最新情勢（ドイツ、イギリス）<sup>2</sup>

① 2016年6月30日（木）16:00～18:00 @日本生産性本部

テーマ「報告書のとりまとめについて」

<sup>1</sup> 2016年3月16日～26日実施。

<sup>2</sup> 2015年11月11日～21日実施。

## II. 普及啓発事業

### 1. 調査研究成果の公表

#### (1) 報告書の公表

下記報告書を取りまとめ、ウェブサイト上に公表した。

- ① 米国調査「米国におけるフィンテックおよびIoTの動向」報告書  
2016年8月1日発表
- ② 欧州調査「欧州主要国におけるIoT覇権を巡る最新情勢」報告書  
2016年8月1日発表

#### (2) 生産性新聞を活用した調査結果の発信

調査結果に基づくコラム記事を生産性新聞に連載。同内容を「IFIT Topics」としてウェブサイト上にも掲載し、成果の普及をはかった。

- 欧米におけるIoT最新情勢(3)：2016年4月15日号  
「インダストリー4.0とITセキュリティ～インフィニオンの取組み」
- 欧米におけるIoT最新情勢(4)：2016年5月15日号  
「英国のIoT政策～スマートシティ」
- 欧米におけるIoT最新情勢(5)：2016年6月5日号  
「英国～デジタル・カタパルトの取組み」
- 欧米におけるIoT最新情勢(6)：2016年6月15日号  
「ベンチャー投資額6兆円のアメリカの現状」
- 欧米におけるIoT最新情勢(7)：2016年7月5日号  
「プラグアンドプレイ・テックセンター～アクセラレーション・プログラム」
- 欧米におけるIoT最新情勢(8)：2016年7月15日号  
「ボストン・IoTの発信地に生まれたハードウェア・エコシステム」
- 欧米におけるIoT最新情勢(9)：2016年8月5日号  
「ニューヨーク ウィークが提案する新たな起業コミュニティ」
- 欧米におけるIoT最新情勢(10)：2016年8月25日号  
「英バークレイズが取り組むフィンテック企業育成」

#### (3) フェイスブック等SNSを活用した調査結果の発信

- 調査研究メンバーの公募のため、既存のウェブサイトに加え、Facebook公式アカウントおよびFacebookページを設置した。Facebookでは当財団からの告知や調査報告に留まらず、メンバーによる現地からのリアルタイムの投稿をシェアするなど、インタラクティブな情報発信を行い、広く拡散できた。

#### (4) 調査メンバーによる発表

- 「ドイツの『インダストリー4.0』の取り組みと日本製造業の課題」

著者：榊原清則・中央大学大学院教授

掲載：映像情報メディア学会誌 2016年7月号

## 2. その他

### (1) 報告書の引用等

#### ① 総務省地域IoT実装推進タスクフォース「人材・リテラシー分科会」(2016年10月21日)

第1回会合資料「検討課題(案)」において「IT活用に関する企業研究」(2015年5月発表)より、企業におけるIT人材の不足に関する調査結果が引用された。

#### ② 日本経済新聞「経済教室」(2017年2月16日)

滝澤美帆・東洋大学准教授『サービス産業の生産性～米国の半分、格差一層拡大』において「IT活用に関する企業研究」(2015年5月発表)より、データ分析結果「IT投資水準と効果」が引用された。

## Ⅲ. 法人運営に関わる事業

平成28年6月15日 通常理事会の開催

平成28年6月22日 定時評議員会(書面)の開催

平成29年3月29日 通常理事会の開催

## 平成28年度財務諸表

### 貸借対照表

平成29年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	42,940,001	29,910,656	13,029,345
流動資産合計	42,940,001	29,910,656	13,029,345
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
定期預金	60,000,000	100,000,000	-40,000,000
投資有価証券	100,000,000	100,000,000	0
特定資産合計	160,000,000	200,000,000	-40,000,000
(2) その他固定資産			
電話加入権	4,000	4,000	0
その他固定資産合計	4,000	4,000	0
固定資産合計	160,004,000	200,004,000	-40,000,000
資産合計	202,944,001	229,914,656	-26,970,655
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
預り金	29,802	22,221	7,581
未払金	0	1,524,284	-1,524,284
流動負債合計	29,802	1,546,505	-1,516,703
負債合計	29,802	1,546,505	-1,516,703
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
寄付金	200,000,000	240,000,000	-40,000,000
一般正味財産への振替額	-40,000,000	-40,000,000	0
指定正味財産合計	160,000,000	200,000,000	-40,000,000
(うち特定資産への充当額)	160,000,000	200,000,000	-40,000,000
2. 一般正味財産			
指定正味財産からの振替額	42,914,199	28,368,151	14,546,048
正味財産合計	40,000,000	40,000,000	0
正味財産合計	202,914,199	228,368,151	-25,453,952
負債及び正味財産合計	202,944,001	229,914,656	-26,970,655

正味財産増減計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①特定資産運用益	1,990,394	1,839,000	151,394
②流動資産運用益	6,474	8,606	-2,132
③事業収入	700,000	0	700,000
④雑収益	375,155	402,832	-27,677
経常収益計	3,072,023	2,250,438	821,585
(2) 経常費用			
①一般事業費（調査研究）	25,560,238	27,468,882	-1,908,644
②一般事業費（普及啓発）	1,710,034	6,827,380	-5,117,346
③収益事業費	0	0	0
④管理費			
人件費	333,309	270,000	63,309
事務諸費	795,394	871,326	-75,932
司法書士費	27,000	64,800	-37,800
事務所賃料	100,000	100,000	0
経常費用計	28,525,975	35,602,388	-7,076,413
当期経常増減額	-25,453,952	-33,351,950	7,897,998
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
特定資産取崩収入	40,000,000	40,000,000	0
経常外収益計	40,000,000	40,000,000	0
当期経常外増減額	40,000,000	40,000,000	0
当期一般正味財産増減額	14,546,048	6,648,050	7,897,998
一般正味財産期首残高	28,368,151	21,720,101	6,648,050
一般正味財産期末残高	42,914,199	28,368,151	14,546,048
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	-40,000,000	-40,000,000	0
当期指定正味財産増減額	-40,000,000	-40,000,000	0
指定正味財産期首残高	200,000,000	240,000,000	-40,000,000
指定正味財産期末残高	160,000,000	200,000,000	-40,000,000
III 正味財産期末残高	202,914,199	228,368,151	-25,453,952

## 財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

当該事項はありません。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券 … 購入時の取得価格によっている。(償却原価法については、購入価格と債券金額との差額について重要性に乏しいため、適用していない。)

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
定期預金	100,000,000	0	40,000,000	60,000,000
普通預金	0	0	0	0
有価証券	100,000,000	0	0	100,000,000
合計	200,000,000	0	40,000,000	160,000,000

4. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特定資産				
定期預金	60,000,000	( 60,000,000)		
有価証券	100,000,000	(100,000,000)		
合計	160,000,000	(160,000,000)	( 0)	( 0)

一般財団法人国際IT財団

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
(満期保有目的の債券) 仕組債：エスエムビーシー ニッコウショウケン	100,000,000	101,720,000	1,720,000
合計	100,000,000	101,720,000	1,720,000

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額 特定資産運用益計上による振替額	1,990,394
合計	1,990,394

## 附属明細書

1. 特定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定 資産	定期預金	100,000,000	0	40,000,000	60,000,000
	普通預金	0	0	0	0
	有価証券	100,000,000	0	0	100,000,000
	特定資産計	200,000,000	0	40,000,000	160,000,000